

つばさだより 7月号

港区適応指導教室

<つばさ教室>

平成28年7月7日発行

(住所) 港区東麻布2-1-1 (電話) 3589-2071

(HPアドレス) <http://tsubasa.minato-kyo.ed.jp/>

梅雨時は衛生面に注意を

梅雨空の下、街角のあちらこちらに咲いている紫陽花にふと足を止めて見入ってしまいます。

この時期は、洗濯物が乾かないだけでなく、衛生管理にもっとも気を遣う時期でもあります。汗ばんだ衣類や寝具は、こまめに洗濯することが欠かせません。晴れた日を有効に使って、洗濯物を一気に片づけることは重作業でしょうが、ぜひ、子供たちにもお手伝いをしてもらって、家事に貢献することの大切さをやりがいを学んでほしいものです。そして、もう一つは、食中毒の予防です。温度と湿度が高まるこの季節は、カビがはえたりするなど食べ物が傷みやすい時期です。食べ物が余った時に、捨てずに後で食べようと考え、ゴミにしないことは良いことですが、健康を害してしまえば元も子もありません。冷蔵庫を過信せず、家族で無理なく食べられる量を用意し、調理したものを必要以上に残さないよう、各家庭でも努めていただきたいと思います。



学期末となり、間もなく夏休みです。子供たちには、学習面、生活面での1学期の振り返りをする



とともに、夏季休業中の計画をしっかりと立ててほしいと思います。特に、中学3年生にとっては、夏休みをいかに有意義に過ごすかによって、自分の進路が決まると言っても過言ではありません。つばさ教室は、夏季休業中もいつもと同じ時程で開室しています。基本的な生活リズムをくずさぬよう、学習用具を持参し登室して下さい。

これから始まる長い夏を熱中症等に十分注意し、健康で元気に過ごしてほしいと思います。

赤ちゃん触れ合いタイムを実施

中学校の技術・家庭科の学習に「保育」があります。つばさ教室では、「赤ちゃん触れ合いタイム」の活動の機会をとらえて、日頃なかなかできない実技教科の学習に取り組めるよう計画しています。その計画の一つである「赤ちゃん触れ合いタイム」を6月27日(水)実施しました。この活動は、乳幼児と接することを通して、思いやりの心情を育むことを目的とした保育の体験実習です。

今回は、11か月と1歳6か月の二人の女の赤ちゃんとかかわりました。また、講師には日頃お世話になっている東麻布保育室から、吉田可南子先生においでいただき、お話を頂戴しました。絵本や資料を用意していただき、二人の赤ちゃんの顔色や動きを参考にしながら、わかりやすい説明をしていただき参加生徒に有意義な学習時間となりました。

特に保育の学習は、教科書を読めばわかるというものではありません。赤ちゃんの表情やしぐさを目の当たりにして、表現の豊かさを知り、コミュニケーションの難しさを学ぶことができます。一人っ子の家庭や、親戚に子育て中の家族がない環境では、小中学生が乳幼児と接する機会は極めて少ないのが現状です。

今後も「赤ちゃん触れ合いタイム」を通して、児童・生徒に思いやりの心情を育てていきたいと思えます。



==== 7・8月の行事予定 =====

- ◆外国語活動 7月6日(水)、13日(水)：NTによる外国語学習を行います。
- ◆体育活動 7月6日(水)、13日(水)：赤羽小学校にて実施します。
- ◆出前授業 7月22日(金)：戸板女子短大の先生を講師に招いて、食育に関する授業を実施します。(詳しくは別紙にて保護者の方にお知らせします。)
- ◆こども平和祭り 7月25日(月)：御成門中学校にて開催されます。午前中、式典と舞台発表があります。
- ◆理科体験 7月25日(月)の午後：寒剤(氷と食塩を使って冷やす方法)の学習を行います。アイスキャンディー作りに挑戦し、寒剤の働きについて学びます。
- ◆進路説明会 8月3日(水)：都立稔ヶ丘高校の先生を講師に招いて高校の話を行います。
- 【お知らせ】** 7月8日(金)の午後、および27日(水)の午後、港区の先生が集まる研修会がつばさ教室で開催されます。大勢の来訪者がありますのでご承知おきください。

言葉のコラム：日本語を大切に(中学生は国語の学力補充を)

漢字が並ぶと、つい音読みでつなげて読んでしまうもの。今回はどこで切って発声するか考えます。

◇「キラ星の如く輝くスター選手たち。キラ星とは何？」⇒ 正解は「きら(綺羅)、星の如く輝く・・・」と使い、きらと星はつながりません。今月は七夕ですが、キラ星という星は存在しません。幼稚園児たちが歌う「キラキラ星」の言葉から引かれた、誤用と考えられます。

◇「間髪を入れず、の読みは、かんぱつをいれずと読む？」⇒ 区切る場所が違います。正しくは「かん、はつをいれず」と読み、即座に、の意味で用います。「髪(はつ)」とは、髪の毛一本ほどのわずかなすき間、すなわち「一瞬の時間」の意味です。したがって、危機一髪を危機一発と書くのも誤り。映画の宣伝目的で、誤用と知りつつあえて使ったことが、流布してしまったようです。